

DuMA ニュースレター

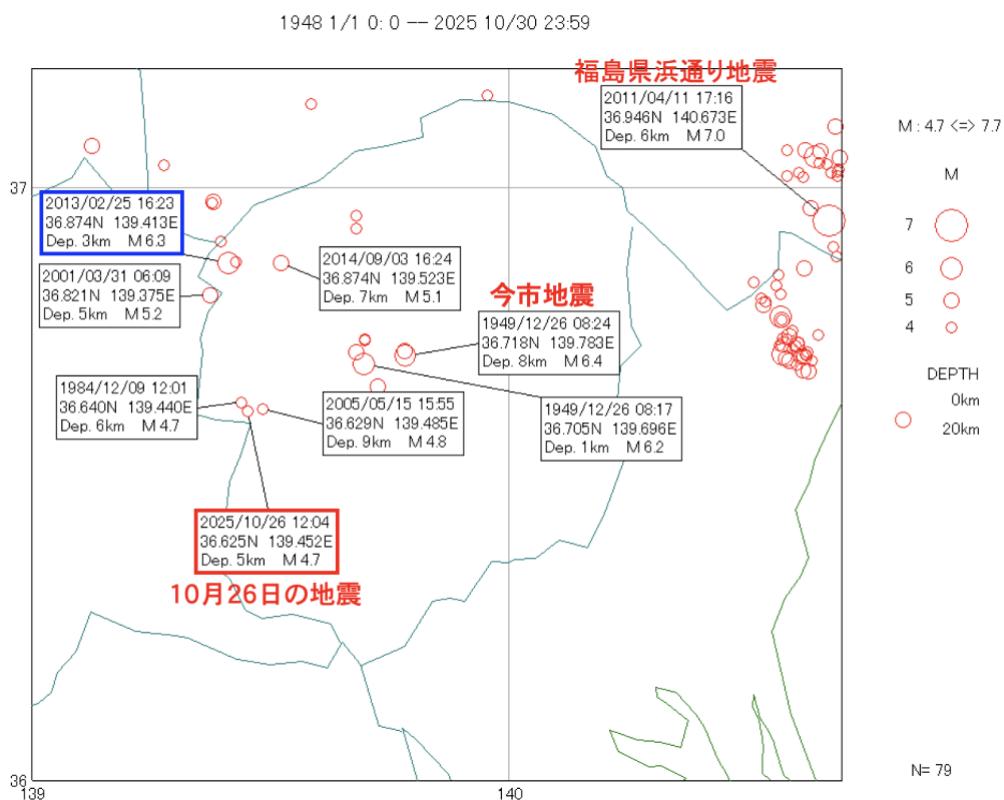
2025年11月3日

栃木県北部(西部)で少し珍しい地震発生

10月26日12時04分、栃木県北部(気象庁発表、実際には栃木県西部がより適切か)でマグニチュード4.7の地震が発生し、栃木県日光市で震度4、東京都でも多くの地点で震度2を観測しました。



実は栃木県というのは、関東地方では比較的地震発生が少ない県なのです。次の図は1950年以降のマグニチュード4.7以上の地震をすべて図示したものです。



2013年2月25日に栃木県北部で**M6.3の地震(最大震度5強)**が発生しているのが目立ちますが、栃木県北部では1949年12月26日に**今市地震(M6.4)**が発生しています。この地震では死者10人、負傷者163人、住家全壊290棟などの被害を生じました。



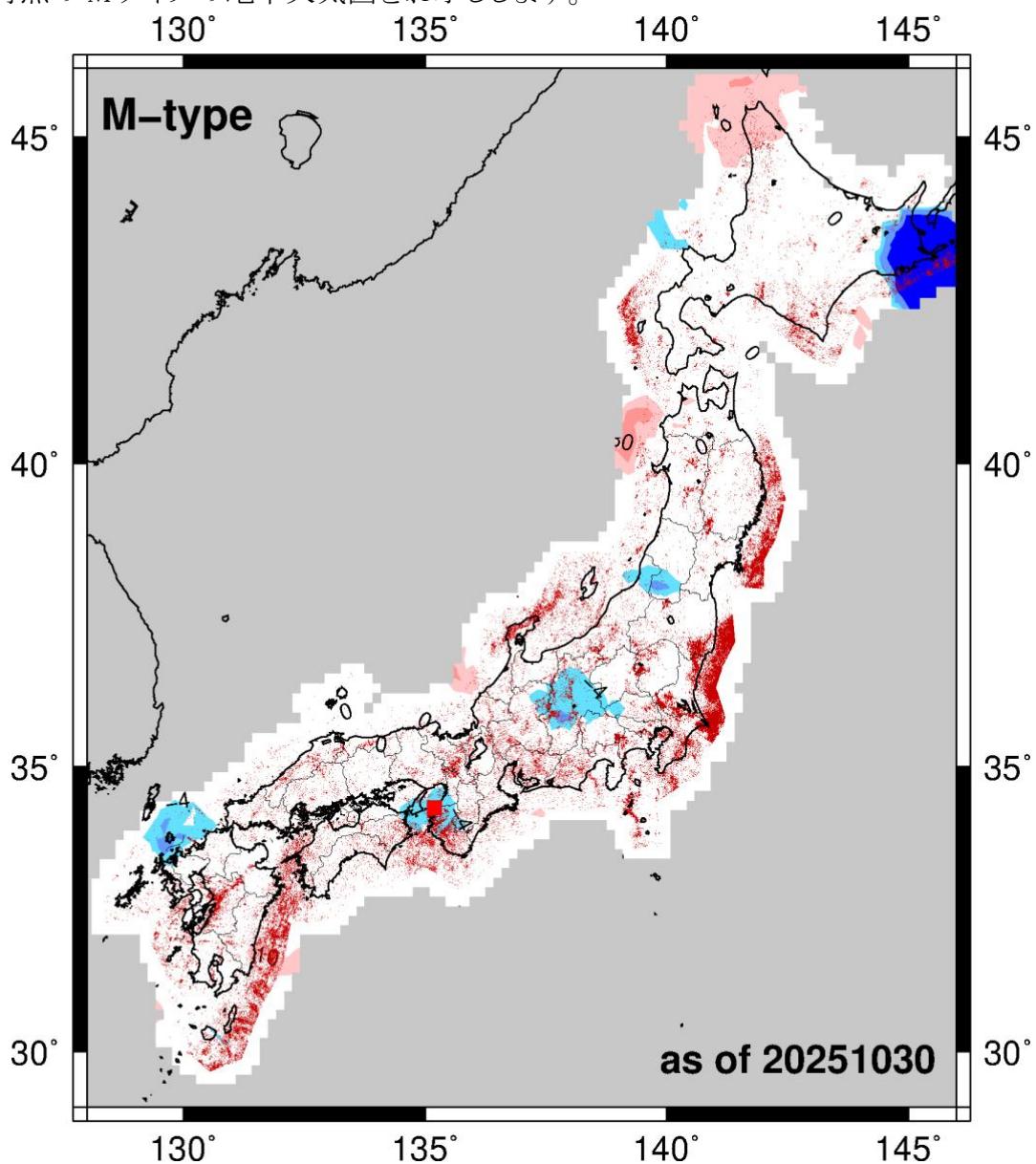
10月26日の地震の規模は中ぐらいですが、関東地方北部の地震活動が変化する兆しかと考えています。

また2011年4月11日の福島県南部の地震(丁度東日本大震災の1ヶ月後に発生)は、実は電力業界を大きく騒がせた地震として有名な地震でした(後に「**福島県浜通り地震**」と命名)。この4月11日の地震というのは、311(東日本大震災)の直後であったため、あまり大きな報道はなされませんでしたが、地震学的には(特に電力会社にとって)極めて深刻な地震だったので。これは電力会社によりそれまで「活断層ではない」と判断されていた井戸沢断層・湯ノ岳断層という断層系が活動したためです。

この断層系は電力会社の(311前の)調査では「活断層の可能性は低い」と判断されていました。しかし311後に改めて調査してみると、およそ15,000年前には活動していた事が確認されました。つまり原発設置のための活断層調査というものが完全ではないという事を地震発生の事実をもって証明してしまったのです。

日本列島陸域の地下天気図®

9月22日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。今週は10月30日時点のMタイプの地下天気図をお示しします。





先週号でもお知らせしましたが、今回の解析でも北海道東部の地震活動静穏化(図中の青い領域)は、消えていない事がわかりました。ちなみに 2025 年 10 月 25 日の根室半島南東沖の地震は速報値でマグニチュード 5.9 と報告されていましたが、26日に公開された気象庁暫定値ではマグニチュード 5.8 と修正されました。この地域ではまだ M6 クラス発生の可能性が残されていると考えています。

それ以外では、長野県を中心とした異常、紀伊半島付近、九州北部での地震活動静穏化が今週の地下天気図でも確認されます。また長野県を中心とした静穏化異常と紀伊半島付近の異常は若干異常の位置や形状が異なりますが、10月20日のニュースレターでお示しした東海地方以西の地下天気図でも確認する事が可能であり、確度は比較的高い異常と考えています。